長和町大門の黒曜石体験ミュージアムで25日、「第15回黒曜石のふるさと祭り」があった。参加者は火おこしをしたり、狩猟に使った矢を射たりして縄文人の生活を体験した。

縄文時代の狩猟を体験するブースで、弓で矢を放つ参加者

縄文期の暮らし体験

長和で祭り

諏訪地域からも出展

縄文時代の狩猟を体験するブースでは、参加者が黒曜石の矢尻を使った弓矢で、5メートルほど離れたイノシシに見立てた的に矢を放った。体験した上田市南小学校6年の村山史穏君(12)は「力加減が難しかった。縄文人はこういうので狩りをしていてすごいと思った」と話していた。

縄文時代を研究する明治大の阿部芳郎教授が講演。「黒曜石は狩りに用いられる石だった。狩りは多くの人で動物を追い込み組織的に行っていた」と説明した。

長和町の遺跡を含む八ケ岳山麓の長野、山梨両県の計14市町村による「星降る中部高地の縄文世界―数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅」は昨年5月、「日本遺産」に認定された。祭りではこれを受け、諏訪市や山梨県北杜市など10市町村がブースを出展、縄文時代の住居を模したテントを設けたり、土器の複製品を展示したりした。